



石田梅岩坐像（堺市戎之町東 菅原神社）

【目次】

創刊にあたって・堀井良殷	2
本年度事業計画決まる	2
随想	3
現代版心学道話・下野讓	4
豆事典（菅原神社の石田梅岩座像）	4
編集後記	4
（題字 理事 和田亮介）	

創刊にあたって

理事長 堀井良殷

今年には心学明誠舎開講二百二十五年目を迎えますが、当舎の活動もますます活発になり、まなびの輪もひろがりつつあります。これも舎員の皆様のご尽力によるものと深く感謝申し上げます。

世界の資本主義体制が爛熟し、その暴走をどのように制御して持続可能社会を創ってゆくかが課題になっているいま、二百数十年も前に問題の本質を明快に説いた石門心学の先見性に改めて関心と注目が集まっています。

日本国内でも一時下火になっていた心学活動の再開の報せが伝えられ、また海外からの問い合わせも来ております。こうした状況のなかで舎報を出そうという意見がまとまり、創刊することになりました。表題は戦後の一時期、大阪市立大学の竹中靖一教授が発行されていた舎報名を引き継いで、「みち」としたいと思います。

当舎のめざす「まなび」「おこなひ」「つたえる」の活動にこの舎報が役立つことを祈ってやみません。



平成三年度前半 事業計画

明誠舎ひらのまちギャラリー【サロン】(終了)

場所 辰野ひらのまちギャラリー

日時 五月二〇日(木)午後六時三〇分

講師 亀岡文化資料館館長 黒川孝宏氏

林家染雀(落語)

【サマーセミナー】

場所 さいかくホール 両日共

(一日) 七月一日(金) 午後六時三〇分～八時

講師 大阪府立准教授 山東功氏

(二日) 七月三日(金) 午後六時三〇分～八時

講師 京都大学院生

フアン スティーンパウル ニールス氏

【心学明誠舎開講二五年記念第三回石門心学講演会】

場所 リーガロイヤルホテル

日時 十月二日(金) 午後六時～九時

講師 がんこフードサービス会長 小嶋淳司氏

(株)商業界主幹 倉本初夫氏

【心学普及講座】

染雀の落語と石門心学の教えを出前致します

演者 林家染雀

講師 心学明誠舎理事

【早春セミナー】(詳細後日)

【第七回勉強会と懇親会第八回勉強会】(詳細後日)

【随想】梅岩の「問い」

理事・京都大学大学院教授 辻本雅史

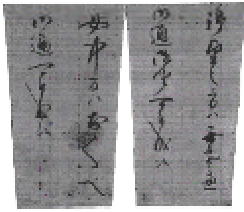
石田梅岩は、2度の「開悟」体験を経て開講した「開悟」に達したことで確信をもって、人が生きる根拠となる「教え」を人々に説くことができたのである。いつの時代でも、人は、自らが生きていく「拠り所」が必要である。それを生きるための価値観といいかえてもよい。日々直面するさまざまな問題に、自分で判断を下すための「拠り所」のことである。丹波の農村で育った梅岩が、京都の町中で商売に従事する日々において、何を拠り所に生きていくのか、彼自身がきつと不安な思いであったに違いない。あたかもその享保期は、凶作が続く社会秩序も不安な時代であった。梅岩は、その「拠り所」を「学問」修行によって得ようと、学び続けた。

生の根拠は、一定の確固たる超越的な価値にもとづくものである。梅岩はそれを、宗教信仰ではなく「学問」のうちに求めた。この点が、江戸期上方庶民の特徴である。平野の金翠堂も大坂の懐徳堂も、やはり学問であった。学問はひとえに自らの努力による探究の

営み。人の知性への信頼感が、上方にはあったといつてよい。

思えば近代日本においては、日本という「国家」が国民の価値観を支えてきた。それが崩壊した第二次大戦後は、「豊かさ」という価値がそれに代替した。バブル崩壊後、「豊かさ」の幻想がはがれ、いったい何を拠り所に私たちは生きていくのか。それを見いだせないまま、混迷の中にいるのが「いま」の時代であるのではないだろうか。とりわけ利潤第一の企業社会で、企業活動を支える確かな「拠り所」を模索しているように見える。こうした模索が、近年、梅岩や石門心学への関心の高まりにつながっているに違いない。

梅岩や石門心学の思想遺産をもって、こうした現代の課題に、いかに応えていくのか。それこそわが心学明誠舎が不断に自問すべき問いであろう。それは、梅岩の「教え」の再構成（いわば梅岩の「再語り」）で応えられる問題ではない。梅岩が自ら学び続けた姿、そこにこそ私たちが学ぶべき示唆が含まれているのではないか、私にはそう思われる。



講義の際、軒先に吊された行灯

【豆事典】菅原神社の石田梅岩座像 表紙写真
堺は石門心学が盛んな地でした。寛政期、中沢道一翁采塚の際には三千の大衆が集まったそうです。文化十四年には、この地に「庸行舎」が開講しました。この座像は、それを記念し、昭和十四年、百舌本町の府立農学校敷地に石田千虎が制作しました。昭和二十九年、同地での府立ろう学校建設に伴い、「庸行舎」の元所在地に近い菅原神社境内に移されました。現在、石門心学にご理解のある池田典子宮司によって、大切に守られています。(井上宏 記)

現代版心学道話

理事 下野讓

江戸時代に心学講舎が全国に二八〇も出来て、多くの庶民が聴講したと記録されている。こんなに多くの人達を集めた理由は道話にあると考えた。今後、多くの方々に石田梅岩や石門心学を知っていただくためには、是非とも現代版道話を復活させる必要がある。そこで落語家の林家染雀さんに相談して演じてもらうことにした。染雀さんは林家染丸師匠の五番弟子で私もこれまで何度か落語を聞かせていただいている。大阪

大学文学部を卒業されていて適任であると考えた。「都鄙問答」を題材に面白く仕上げてください。五月一〇日の最初の公演は好評だった。今後は「要望」に心じて心学普及の為に出演で演じていただくことにしたい。

編集後記 理事・事務局長 村上福壽郎

いよいよ心学明誠舎の舎報が船出しました。竹中生が発行された「みち」には遠く及びませんが、会員相互の交流や明誠舎との絆づくりに何らかのお役に立てばと思います。将来は研究発表の場にもしたいと欲張りの目標を掲げつつ、今回は発行に主題を置き、たった四ページの舎報としました。旅立ち第一号です。今後は内容・頁数共、徐々に充実していきたいと考えていますが、当面は年一回発行 A5版となります。発送は、メール・郵送の何れかとなります。

「海外便り」や「各舎探訪」など、良い企画はありますが、事務局の手が足りません。会員の皆さまの投稿と実質的ご協力を切にお願いいたします。

(社)心学明誠舎 〒556-0011 大阪市浪速区難波中

3-9-3 エール学園内 TEL/Fax 06-4981-6899

E-mail : meisetsu@chle.ac.jp

URL : <http://www.chle.ac.jp/meisetsu/>